クイーン倶楽部だより 11月号

2024年
第261号

有限会社エコ・ライス新潟
新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
TEL 0258(66)0070
FAX0258(66)0447
URL http://www.eco-rice.jp/
E-mail office@eco-rice.jp

信濃川の堤防が陥没

中越地震から20年

20年前に起こった中越地震。
その時の経験から、米を原料にした「災害時要配慮者」向けの災害非常食の開発・生産を始めました。近年多発する災害を避けることはできませんが、経験を活かし災害時の“食の安全”を追及します。

倒壊した農作業小屋

液状化した田んぼ

ハウスでの避難生活

それでいいのか医療

大災害に「注水」の備えを

その14

10月23日は、中越地震20年の記念日でした。私が山古志村を訪れたのは、1ヶ月を経てからでした。それまでは道路が寸断されて村に入れなかったのでした。訪問途中、運転者の方の「山が動いていた」が衝撃的でした。地滑りが侵入を妨げていたのです。大震災の爪痕である数件の埋没した家を見たのを覚えています。

さて、震災時にいつも不思議に思うのは、断水への備えが無いということです。大震災では水道が破壊されるのは必発です。一ヶ所でも管がはずれると全体の断水になります。能登半島では半年経った今でも断水している地域があります。阪神淡路大震災では寒い中住民がバケツを抱えて自衛隊の給水を長い列で待っていました。

水道は上水、中水、下水があるべきです。現状ではトイレ、風呂水、拭き掃除まで安全な上水使用です。災害時に於ける中水とは、井戸・湧水・小川の自然利用です。

中水まで水道管では断水必発です。大震災で水枯れすることもありますので、一集落二ヶ所は必要です。大震災後真っ先に風呂水を溜め込むが常識ですが、どこかで中水を得られれば水道水は必要ありません。飲料水としても充分に使えますが、念のため沸騰させて冷ませば安全水です。震災用として古き井戸・7湧水に再デビューをしてもらいましょう。

中村 信也(なかむら のぶや)
医学博士。東京家政大学名誉教授。まほろば東京クリニック院長。
「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者。